

二柱の天照大神と饒速日尊にぎはやひのみこと

女装して天照大神となつた大物主神

本当の神はキリストの神

神素盞鳴尊かむすきのをのみこと（大神）だつた！Ⅱ（中編一六）

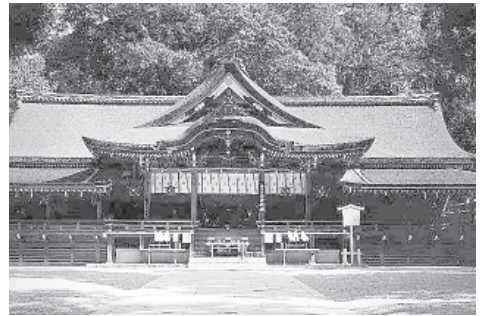
大阪中央分苑 出口 恒

大神神社大物主大神とは何か
奈良県桜井市にある日本最古

の神社 大神神社 図一）は、崇神天皇七年（紀元前九一年）に天皇が物部連の祖伊香色雄に命じ三輪氏の祖である大田田根子を祭祀主として大物主神を祭らせたのが始まり。奈良県桜井市にあり、旧社格は官幣大社、大和一宮。三輪山を御神体として成立した神社であり、本殿を持たず、拝殿から三輪山を神体として仰ぎ見る原始神道 古神

道）、アミニズムの形態を残しています。三輪山信仰は縄文、弥生に遡ると考えられています。拝殿奥には三ツ鳥居があり、鳥居を一直線に組み合わせた特異な形式となっています。三つの鳥居に足が三本。拝殿の後ろが三輪山で禁足地となっています。中央の鳥居には扉がついており、年一回お正月の饒

道祭のときだけ開かれ、禁足地でつけられた御神火がこの三ツ鳥居をくぐります。神聖な場所で、写真撮影は禁止されています。



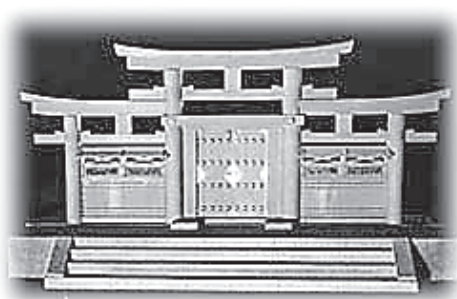
図一 大物主を祭る大神神社

す。鳥居の「鳥」とは天と地を結ぶもの。ヘブライ語では、門を意味します。

少し想像しましょう。年一回、貴方がこの門を通るとします。貴方はこの鳥居、神の門の下に立つ。鳥居の内側の鍋蓋の形の下に貴方の体が入る。その瞬間、鳥居の内側は十字架となり、貴方は神と一体になって、大神神社の禁足地に入る資格を得る。

大神神社は大物主大神（倭やまとのおおものぬしくみかたまのみこと）大物主櫛瓺玉（命）を主祭神とし大己貴神、少彦名神を配祀します。最初に押さえるべきは、大神神社の神紋が三つ巴であること。神紋はシュメールに由来すると考えます。『靈界物語』の記述『神の国』誌二〇一〇年七月号参照）では、三つ巴は顕国宮に現われた神素盞鳴尊の神紋です。大神神社の本当の祭神は神素盞鳴尊（大神）であるけれども、天照大神時代にそれを秘匿するために、大物主という神名を使用したのではな

いか。
ア声の言霊
神道では、右むかって左よりも左（向かって右）の神を高位の神とします。従って図二で



図二 大神神社三ツ鳥居
左より少彦名、大物主、大国主を示す

向かつて右に祭られる神が大国主命、中央に祭られる神が大物主神、向かつて左に祭られる神が少彦名神となります。聖師の文献を紐解けば、大物主神は天之御中主神、宇宙の本体そのものともみえます。天之御中主神と神素盞鳴尊との関係を示します。

アの言霊は大物主であり、まず、地であり、顕体であり、大

本である「大気津姫の段(三)」「霊界物語」十一巻十七章)。

アの言霊より生れた太元顕津男の神の御霊も神人として現れ、天之道立の神と共に神業に励まれた「総説」霊界物語七十三巻二章)。

ア声の言霊天也、地也、……大物主也、昼也、御中主也……

◎の本質也(「祈り言」霊界物語七十五巻十章)。

昔は天を拝んでいたの、庭の燈籠は天の神へおあかしをお供えしたのである。今は飾りになつているのだ。天拝石は主神を拝んだのだ「昔は主神信仰」

『新月の光』上巻)。

神祇に対する一般の行為は、尊崇主義、尊敬主義、信仰主義がある。祭祀の実行にも幽齋と顕齋の二者の区別がある。……

大物主神 崇神天皇紀に書かれている大物主神は信仰主義の実例である。信仰的成立の神社は、豊受皇大神宮、大三輪神社、龍田神社、宇佐神宮などがある。……信仰的成立は神の教えに原ついて創立されたものです(「皇道の道」直霊軍)。

信仰的とは主神に対する信仰を意味するでしょう。

故にこの物語に於て主の神とあるは、神素盞鳴尊大神様の事であり、主の神は宇宙一切の事物を濟度すべく天地間を昇降遊ばして其御魂を分け、或は釈迦と現はれ、或は基督となり、マホメットと化り、其他種々雑多に神身を變じ給ひて天地神人の救済に尽させ給ふ仁慈無限の大神であります(「総説」霊界物語四十七巻二章)。

「昔は主神信仰」に照らすと、大神神社は伊勢神宮よりも古い日本最古の神社であり、主神信仰でしょう。主神とは「霊界物語」では、神素盞鳴尊大神を指します。

天之御中主神は、無限絶対、無始無終に宇宙万有を創造する全一大祖神、宇宙の大元霊である。……宇宙の内にある以上は、少なくとも、宇宙と相対的になり絶対ということではできない。宇宙の外にもあらず、また宇宙の内にも在らずというのでは、どうしてもこの神は宇宙と合一状態にあらねばならぬ。還元すれば、天之御中主神は宇宙の本体それ自身でなければならぬ(一)神と宇宙 大本略儀)。

天之御中主大神の御精霊体の完備せるを天照皇大神、又は

撞賢木蔽能御魂天盛留向津媛之神言と称し奉る。是れ撞の大神なり。……国常立之尊は太古に於ける天照大神の位地に進まれ、撞の大神は太古に於ける須佐之男尊に降り玉ひて、天上天下修斎の大業を成就し給ふ時機とは成れる也。

しかれど神政成就の暁は、又元の如く撞の大神は天位に復り玉ひ、国祖は地位に降りて臣系の職に就かせ給ふ可き事は、大本開祖の神諭に明示される所なり「太古の神の因縁」神霊界」。

大神神社の起源

ここで大神神社の起源に触れます。

さて、大己貴命と、少彦名命は力を合わせ、心を一つにして

天下を造られた。また現世の人民と家畜のためには、病氣治療の方法を定めた。このため大百姓は、今に至るまでその恵みを受けている。昔、大己貴命が、少彦名命に語って言われるのに、「我らが作つた国は善くできたと云えるだろうか」と。少彦名命が答えて言われるのに、「あるいはよく出来たところもあるが、あるいは不出来のところもある」と。この物語は、思うに深いわけがあるようだ。その後、少彦名命が出雲の熊野の岬に行かれて、ついに常世（不老長寿の国）に去られた。また粟島にいて、粟莖によじ上られ、弾かれて常世郷に行かれたともいう。これから後、国の中でまだできあがない所を、大己貴命が一人でよく巡り作られ

た。ついに出雲国に至って、揚言葉していわれるのに、「そもそも葦原中津国は、もともと荒れて広いところだった。岩や草木に到るまですべて強かった。けれども私が皆くだき伏せて、今は従わないという者はいない」と。そして、今この国を治めるものはただ私一人である。私と共に天下を治めることができるものが他にあるだろうか。」と。そのとき不思議な光が海を照らして、忽然と浮かんでくるものがあつた。「もし私がいなかったら、お前は どうしてこの国を平らげることができたらうか。私があるからこそ、お前は大きな手柄を立てることができたのだ」と。このとき大己貴神は尋ねていわれるのに「ではお前は何者か」と。答えて、私はお前

に幸いをもたらす不思議な魂……幸御魂・奇御魂……だ」と。大己貴神が、そうです。わかりました。あなたは私の奇御魂、幸御魂です。今どこに住みたいと思われませんか。」と。答えて言われる。吾は日本国の御諸山（三輪山）に住みたいと思う。そこで宮をそのところに造つて、行き住ませた。これが大三轮の神である。この神の御子は賀茂君たち、大三輪の君たち、姫踏鞴五十鈴姫命である。……これが神日本磐余彦火々出見天皇（神武天皇）の後である。賀茂君たちの神社が下鴨神社、上賀茂神社です。はじめ大己貴神が、国を平らげられたときに、出雲国の五十狭々の小浜に行かれて、食事されようとした。しばらくし

く一人の小人が、ヤマカガミの皮で舟をつくり、ミソザイの羽を衣にして、湖水にゆられてやつてきた。大己貴神は拾つてたねしほ掌たねしほにのせ、もてあそんでいると、跳ねてその頬をつついた。そこでそのかたちを怪しんで天神に尋ねられた。すると高皇産たかみむすひ靈尊のみことがお聞きになつて、「私が生んだ子は皆で千五百ほどある。その中の一人の子は、いたずらで教えに従わない子がいた。指の間から漏れ落ちたのは、きつと彼だろう。可愛がつて育ててくれ」といわれた。これが少彦名命である。

なぜ二柱の神は

皇居を出されたか

さて、第十代天皇 崇神天皇の事績をみましょう。年代は

『日本書紀』の編年に従つています。

開化天皇十年 紀元前一四八年に産まれ、六十年の開化天皇崩御に伴い翌年即位。崇神天皇三年 紀元前九五年九月、三輪山西麓の瑞籬宮みずかきのみやに遷都せんと。崇神天皇五年、疫病が流行り、多くの人民が死に絶えた。翌年疫病を鎮めるべく、従来宮中に祀られていた天照大神と倭大國魂神やまとのおおくにたまのたまを皇居の外に移した。

崇神天皇七年二月大物主神、大和倭迹迹日百襲姫命やまとととひももそひめのみことに乗り移り託宣する。十一月、大田田根子 大物主神の子とも子孫ともいうを大物主神を祭る神主とし（現在の大神神社、三輪山を御神体）、市磯長尾市を倭大國魂神を祭る神主としたところ、疫病は終息し、五穀豊穡と

なる。

この文脈では、皇居を出た倭大國魂神が大物主神で、饒速日尊となります。饒速日尊は神武天皇との約束で、天璽瑞宝あまつしるしみずたから十種として皇室に祭られました。崇神天皇と王朝が変わり、三輪山西麓の瑞籬宮に遷都した結果、疫病が流行つたので、大國魂神である大物主 饒速日尊の祟りとされ、皇居の外に出されたのでしよう。

大物主 饒速日尊は神武天皇の時代に鎮魂みたましずめのまつり祭で天皇の靈を強化する存在として祭られていた。否、皇祖神そのものとして代々の天皇と一体になり、天皇に即位した皇太子を大嘗会おほのみめのまつりを経て皇祖神の宿る天皇という存在にしたのだと思います。

女装して天照大神となつた

大物主神

和、すなわちやまとの国の國魂は、過去、神武天皇より先に天孫降臨し、大和を治めた饒速日尊でしかありません。そして、もう一方の天照大御神も大物主神であり、天照國照の別名を持つ饒速日尊でした。出雲神である大物主天照大御神は、持統天皇が自身の正当性を確認し、子孫にその地位を継承させるため、大物主神を女装させたのです。

大國魂神を祭る名古屋市の國玉神社の祭神は大物主神、国内神名帳に「従二位大國魂神」。大物主神は大國魂神であり、それは饒速日尊となります。

古代より皇室が参拝した神社は伊勢神宮ではなく、大神神

社、石上神宮、大和神社です。祭神は、大物主神、布留御魂神、大和国魂大神です。大物主神、布留御魂神、大和国魂大神は饒速日尊の別名です。関裕二氏の見解から補足します。大神神社は三輪明神大神神社と呼ばれています。

二〇一〇年二月号で、世阿弥の謡曲「三輪」についてお話ししました。三輪の里に住む玄寶の元に、女人が通ってくる。玄寶は偉い方なので、櫛(しづみ)仏前に備える植物と水(みづ)をさし上げよう、という。そして「私の罪をお助けください。」とすがり帰っていく。この女人が三輪の神。この後、三輪山の神木の元で再会するが、この時謡い(バックコーラス)は、「女姿と三輪の神、女姿と三輪の神」と



図三 女装して天照大神となった大物主神

謡い、女人は三輪明神となって姿を現す(図三)。三輪明神は、天岩戸神話を再現し最後に地謡は、次のように謡う。

「思へば伊勢と三輪の神、思へば伊勢と三輪の神、一体分身の御事、いまさら何と磐座(いわくら)や」伊勢と三輪の神が同一であることなど、今さら改めていう必要がありましよう。この時の三輪明神の身なりは不可解で、男性神職の服の上に、女性の服飾を着込んでいる。(関裕『日本書紀が隠した天皇の正体』廣済堂文庫)。

なお、大物主神と天照大神が同神である証拠として、両神が蛇神とされたことがあげられます。

倭迹迹日百襲姫命は、

大物主神の妻となったが、夜のみ訪問なので姿が見えないと訴えた。神はそれも道理だとして、「明朝お前の櫛入れの中に入っている。但し姿を見て驚くな」と言った。翌朝姫が櫛入れを開けたら「小蛇」がいた。驚きの声を上げたら、たちまち人の姿になって妻に、「お前は我慢できずに私に恥をかかせた。今度は逆にお前に恥をかかせてやろう」と言った。そして、天空を踏みとどろかせて三輪山に登って行った。そこで倭迹迹日百襲姫命は天空を去っていく神

を仰ぎ見て後悔し、床にどすんと尻餅をついた。そして箸でホト(陰部)を突いて亡くなられた。人は埋葬された墓を「箸墓」と命名した『日本書紀』崇神紀十年九月条)。

箸墓古墳は太陽神の妻、卑弥呼の墓に見立てられることがあります。

鎌倉時代の通海(つうかい)通海参詣(き)記には齋王の寝床の上には毎朝かならず蛇のウロコが落ちていたと言います。伊勢の神が通ってきていると。齋王(いづみのみか)は女性であり、伊勢の神は男神。大物主は海を照らす不思議な光を持つ。太陽神は蛇神だと多くの神話で語られています。蛇の目が太陽の輝きを思わせるからでしょうか。

古代に、人々は山頂の巨石の

前で祭祀を行っていた。それがだんだんと山のふもとで、祭祀が行われるようになり、今の大神神社の位置に拝殿が造られた。その磐座に祭られている神、磐座神社の祭神が「少彦名神」です。磐座神社の鳥居の下に

立つと、ここでもやがて人の形の縦棒が鳥居と一体になり、キリストの十字架を示しますので、神域に入ると考えることができず。十字架は神道、佛教、キリスト教を問わず、神の印です。

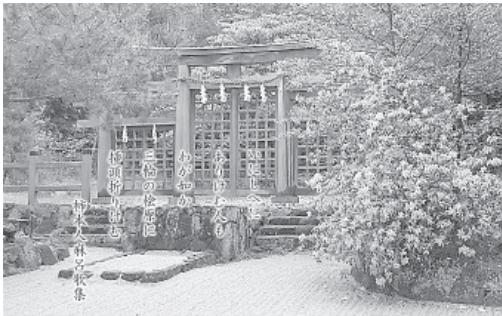
大物主神を神素盞鳴尊として、少彦名神はユダヤにイエス・キリストとして現われた神であり、その後身、言依別命は黄金の玉を高御位山（高熊山）に秘蔵した。大物主神と一体となつて、磐座の神、少彦名神としてのイエスキリストが伊

勢に祭られたのではないか。イエス・キリストと天照大御神はともに死と復活の神話を持ちます。モーセが荒野でかかげた青銅の蛇はイエス・キリストを象徴していましたが、大物主神も蛇神とされていた。

さて、崇神天皇の皇居から外へ向かった天照大御神は、笠縫村の松原神社に移されます。松原神社にも三ツ鳥居があります。

松原神社三ツ鳥居

図四は大神神社の摂社、松原神社の三ツ鳥居で笠縫村の伝承地です。元伊勢の初めです。三輪山を「神体として、神殿も拝殿もなく独特の三ツ鳥居が建っています。祭神は天照大御神 配祀伊弉諾尊、伊弉册



図四 最初の元伊勢 松原神社三ツ鳥居

尊 攝社豊鍬入姫命神社。

『日本書紀』の崇神記によれば、第十代崇神天皇の六年、皇女豊鍬入姫命に託して天照大神を宮中から大和の笠縫邑に遷し、松原神社の場所に堅固な石の神籬を造り祀ったといえます。崇神天皇時代の宮中とは、まさに三輪山にあつたのです。

大神神社の三ツ鳥居が大物主

神、大国主神、少彦名神を示すに比べ、松原神社の三ツ鳥居は祭神が天照大御神 配祀伊弉諾尊、伊弉册尊となっています。この時点で、出雲神としての大物主神から、皇室の神、天照大御神に祭神の呼び名が変えられています。関裕二氏は『日本書紀』編纂と同時に太陽神天照大御神が男神から女神に化けたのは持統天皇をモデルに天照大神を創作することによって、観念上の「持統天皇から始まる新たな王家」の構築を目論んだからと推定しています。

さて、古事記の冒頭に「天地の初発の時、高天原に成りませる神の名は、天之御中主神、次に高御産巢日神、次に神産巢日神、この三柱の神は並独神成り坐して身を隠したまひき」と

の造化三神を祭る教会が奈良県桜井市にあります。大神教会の三柱鳥居（図五）です。大神教会自体は、大神神社の内に創設されましたが、明治の神仏分離により、三輪大社 大神神社）から切り離されました。



図五 造化三神を祭る大神教会三柱鳥居

御祭神は大神神社と同じく、三輪三神 大物主神 大己貴神 少彦名神）を主祭神としています。大物主神・大己貴神・少彦名神を大神神社とともに祭る大神教会が、三輪三神ではなく、造化三神を三柱の神としているのが奇異です。

三輪三神は、物語上での杵築の宮出雲朝廷の三神 桶伏山に現われた三神と一致しています。そして三輪三神とは、世の大本の大御神 神素盞鳴尊と同じではないでしょうか。

杵築の宮（出雲大社）に現れさせる 大國主や大物主 医薬の術と禁厭の道に幸はひ玉ふて 少彦名神の神御魂 四ツ尾の御山本宮の 桶伏山に鎮まりし 世の大本の大御神「序歌」

『靈界物語』十四巻一章）。

大國主神は、国王としての神素盞鳴尊、大物主神は神素盞鳴尊の和御魂、日本書記』では奇御魂と幸御魂、少彦名神は、神素盞鳴尊の幸御魂イエスキリストとして考えるならば、三位一体で神素盞鳴尊に帰一することになります』古事記』では大國

主神の別名は、現実の国土の神霊を意味する宇都志國玉神。しかしコーカス山の顯國王宮の主は素盞鳴尊。大國主は素盞鳴尊を示すことがあります。仮説として考えてみても面白いと思います。

出口王仁三郎聖師は出雲朝廷が全てを統治していたと述べています。五芒星や御来迎の道など、全ては神素盞鳴尊の掌中であつたのか。

近畿五芒星と富士山や出雲朝廷を結ぶ壮大なレイライン。それらを具体的に実現しうるのは、政治を支配しつつあり、土木技術に優れた秦氏でしょう。しかし結果として五芒星と御来迎の道、出雲、富士を結んで浮かび上がるのは、世界・海原の統治者神素盞鳴尊です。

神素盞鳴尊の顯現、出口王仁三郎聖師が本当の救世主キリストであることは、エスペラント語で証明されます。

ONI（人類）— SAV（救う）— ULLO（者）、人類を救う者、王仁三郎の名前はそれ自らが救世主を示します。王仁の謎時計の針が進んでまいります。次号をお楽しみください。

お知らせ

袍の着付けのDVDができました。
必要な方は、事務局まで問合せ下さい。

講師 中野楊子

福田分苑 祭祀講習会より

祭祀委員会